

WEEKLY REPORT

No.1421

<本年度クラブ会長方針>

想いを一つに



ロータリー：変化をもたらす

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 岡村隆徳 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号丸越ビル6F
幹事 春日井和良 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

<2017-18年度R.I.テーマ>

R.I.会長 イアンH.S.ライズリー

第1661回例会

母子の健康日間

平成30年4月26日(木)

会員卓話

於 名古屋東急ホテル

出席計算数 会員 57名

出席率 48名中38出席

出席率 79・17%

前々回出席率 95・56%

例会プログラム

★浅野元米山奨学生カウンセラー

山口R財団・米山記念奨学委員会

・柯隆さん(元米山奨学生)

出版物業内

★加藤親睦活動委員長

・春の家族食事会PR

★会員卓話

★ロータリーソング

★ゲスト

★会員組織委員会ゲスト

株式会社HRC

代表取締役 高木 君与さん

(丹下 富博さん(友人)

ニッコボックス

小澤さん卓話楽しみにしています。

高木君与さんようこそ、楽しんで

みて下さい。小澤さん、卓話楽し

みです。

春日井和良

高木君与さんようこそ、小澤さん

演奏じゃないんですね。渡辺 観永

例年より早く夏日が続きます。

荻葉 賢一

宇瀬さんご苦労さん。草野 勝彦

お話しさせていただきます。

小澤 幸男

高木君与さん、ようこそ名古屋大

須RCCへ。

丹下 富博

高木君与さん、名古屋大須RCC例

会へようこそ。

加藤巴千彦・大上 晃延

神谷まつき・宇瀬 厚

小澤さんの卓話を楽しみにしてい

ます。 杉浦 合淑・酒井 修

小澤さんの卓話楽しみにしていま

す!! 杉本 忠夫・林 順治

小澤さん卓話よろしくお願いま

す。 川合 美幸

川合 美幸

皆さんこ

んごは。

先週は例会

欠席で神野

副会長にこ

挨拶をいた

だき有難う

ございました。

先々週末に開催さ

れた桃園西門RCC歓迎会の翌日か

ら、北米の出張と欧州の出張が重なり、

飛行時間が乗り継ぎ時間を含め

2週間で80時間近くの出張から

今朝戻ってきました。

春の風にEのセントシア成田便

が欠航し、早朝新幹線で成田に向

かつものの離着陸規制で午後まで

会長挨拶



岡村 隆徳

アポリスの季節外れの雪でフライ
ト遅延、最後は米東海岸のストー
ムによるホテルの停電とトラブル
続きの北米出張でした。その後一
日帰国し翌週は巻き起こらない肌寒
いヨーロッパ出張をこなし、長い
旅路を戻ってきました。
帰国した日本はすでに初夏の気
候で安心しましたが、世界の気候
変動はこれからどうなっていくの
でしょうか。何はともあれ今日の
例会に間に合い安堵しております。
今日の卓話は会員小澤幸男さん
による「物作り50年」と題した会
員卓話です。私の職業分類も工業
ソフトウェアでこのモノづくりを支
えるITサービスに関わっています。
最近のトレンドワードであ
ります第4次産業革命「IoT」つな
がる工場(コネクテッドファクトリー)
スマートファクトリーなど、もの
づくりを取り巻く環境はITが牽
引しています。小澤さんも20代は
コンピュータのプログラマーと
して活躍されていたとのこと、
今日は興味深いお話が聞けること
と思います。
今(2017)の工場として中国がもの
づくりの台頭していますが、他の
新興国も工業生産高を伸ばし、新し
い生産設備、管理システムの需要
は旺盛です。先進国でも拡大する
航空機産業や自動車のEV移行への
投資は積極的で、国の経済発展
において、新時代のものづくりで
輸出産業を確立することは絶対条

件です。モノづくりに対する想いが
これからの時代の新しい創造性と
生産性を生み出すことだと思います。
本日はモノづくりの会員卓話よろ
しくお願ひします。

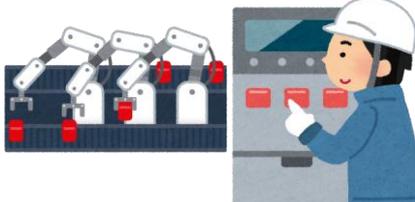
会員卓話

「物作り50年」

小澤 幸男

タイトルの物作り50年はちやう
ど私が学校を卒業して今年が50
年に当たりますので付けさせてい
ただきました。

名古屋大須RCCメンバーの皆さんで製造業に携わっていられる方は数人しかみえず、商業、サービス業、工業の方が大半です。専門の細かい話はやめて、会社の歴史と、その間印象に残った製品のお話をいたします。話だけですと分かりづらいため、数点現物を持ってきましたのでそれについてお話します。08-09年度に会長を務めさせていただいた時の会長挨拶も、仕事の事は一切触れず趣味スポーツ、時事問題等をお話しました。
会社としては吉田隆彦さんのヤマカタヤさんの100年には及びませんが創業70年と成り





ました。

家業は約400年前の清州越しで徳川さんと一緒に清州から城下町の鍋屋町に移り、繊維の染色から始まり明治時代に金物屋に変わりました。今は泉の千田、3丁目に地名が変わりましたが菊井町、明道町、大津橋、東片端、平田町の筋の一本南の昔云う京町筋で、西から石町、鍋屋町、代官町、筒井町の鍋屋町、純喫茶ホンボンの通りです。ホンボンの向かいの鍋屋さんは、江戸時代から鋳物製の大きな鍋を作っていた田結める鍋屋さんです。聞いた話ですが表向きは鍋屋さんですが、裏で隠密をしていたこの事です。現在も業務用の金物に特化して営業をされています。戦後、店を売っている鍋、やかんなど家庭用器物はアルミで出来ていましたが表面処理は腐食防止を兼ねてアルマイトが施されています。特に名口屋は製造するメーカーが多く、金物屋だけでは生活が苦しく下請けでアルマイトを始めました。

昭和23年、家の奥で父親と叔父さんが稀酸の溶液でトランスで電圧を落としてアルミをアルマイトしている実験をしていたのを今でも覚えています。最近アルマイトという言葉はあまり聞きませんが、昨年小学校のアルマイトの食器の余った物を外国の学校に寄付したという記事が新聞に出ました。若い人は給食の食器が金色に染色されたアルミ製だった事は存じないと思いますが、昔はアルミ製で熱いお茶を入れると熱伝導率がいいため熱くて持てませんでした。また金色に染める染料にはお茶を使っていました。

また、現在の水筒はステンレスや魔法瓶で出ていますが、昔はアルミで出ていました。表面はアルマイトで赤色や青色や金色などに着色してありました。名古屋は水筒の一大産地でした。非常に季節性がある商品で、子供が小学校1年生になって最初の春の遠足のために購入される家庭が多く、前年の秋から1月くらいまでが生産のピークで徹夜の連続でした。ただ革のひも状の物で肩からぶら下げる形状でしたので、熱いお茶を入れた場合、足や腰に触りやけどになりそうでした。当時、中学校を卒業したばかりの職人さんが、今は死語に近いですが、住み込みで働いていました。食事も住み込みも一緒で、小・中学

校時代は家族だけの回響はありませんでした。現在も当時入社した社員が75歳の現在まで60年働いてくれています。

家で商売をしていましたから子供時代から仕事を手伝っていました。中学校時代に多少仕事内容も分かかってきて、今から思うと法律違反をしました。昔の1円アルミ貨はいつの間にか発行されたか存知ですか？昭和30年に発行されました。中学生の時その1円玉にアルマイトをかけ、赤とか青などに色を付けて学校に持って行き見せびらかしたようです。すっかり忘れていましたが、40年以上たった同窓会云われて思い出して知らなかった事とは云い、やばいことをやっていたなと冷や汗をかきました。

昭和31年に新しい工場ができて、徐々に家での仕事が減り、高校時代に完全に移転しました。その間、家庭器物の不安定な受注状況を変えたい自動車、2輪車、音響等の工業部品の製造に方向転換し、表面処理だけではなく、部品を材料から製品まで一貫生産する方向に変えました。最初は表面処理以外の加工は外注にお願いしていましたが、私が入社した昭和51年以降は自社内で全加工が出来るよう、設備投資を繰り返しています。その間、色んな加工を取り込む際は1からしますので苦労があまりありません。



CitationXX

その時の模様を的確に表す言葉が2月20日の日経新聞、私の履歴書に載っています。「ヤリとしました。良品計画の元会長松井忠三さんの「TPP」という言葉で、「徹底的に(P)クル」です。新しく物事を始めるときは同業の良い点をパクって取り入れたほうがいいよ」という意味です。

最後に、製品を数点持ってきたので思い出してお話ししました。写真はHARMAN KARDONのCITATION XXというパワーアンプです。当時最高級のアンプで、見える範囲のパネル、ヒートシンクなどの部品を製作しました。品質も最高基準で、製作・検査をしました。お値段が当時148万円もしましたので購入できませんでした。したが、12年ほど前に大須の店で30万円で購入してましたので衝動買いしました。

次に、アルミの外装を使った世界で初めてのラップトップコンピュータであるKAYPRO 2000の上蓋とパネルを持つ



てきました。今では「PhoneやiPadなどでお馴染ですが、33年前に発表されたときはアメリカのショーで黒山の人だかりだったようです。

現在製作中の部品はトヨタのLSの一部車種に使われているフットレストです。また小さい部品はアクセルペダルです。数年前にアメリカでペダルが戻らないと云うリコールが起きました。最終的な原因はフロアマットを余分に重ねて引っかけた戻らなかった事ですが、対応に追われまして、過去3年分のペダルの対策品を2か月半で作って、米国に送り、取り換えが行われました。

5月17日(木) 例会の案内

会員卓話

「広生会社とは何ぞ?」

―事例を中心に―

前田 隆久

5月24日(木) 例会の案内

例会変更 5月27日(日)

春の家族食事業

於ななや者 名古屋駅前店

受付12時00分 例会12時30分

公共イメーシ向上委員会

大原 敏正・杉浦 令淑

高田 知史

*本文は、原則、頂いた原稿を転載しています。